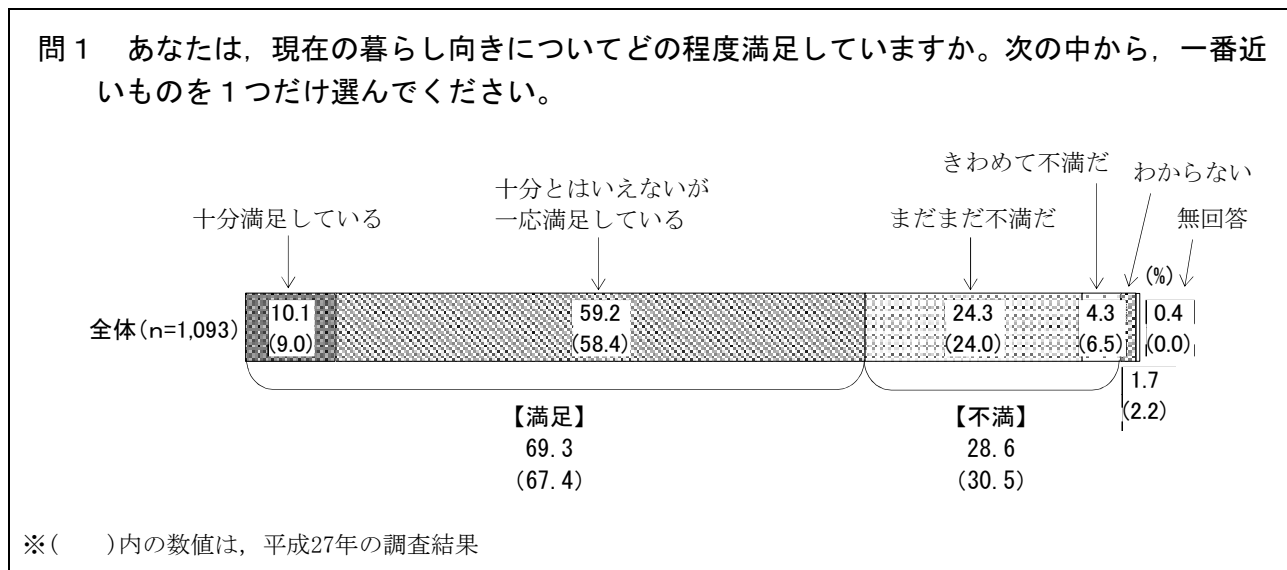


# I 生活意識

## 1. 暮らし向きへの満足度

—【満足】が約7割—

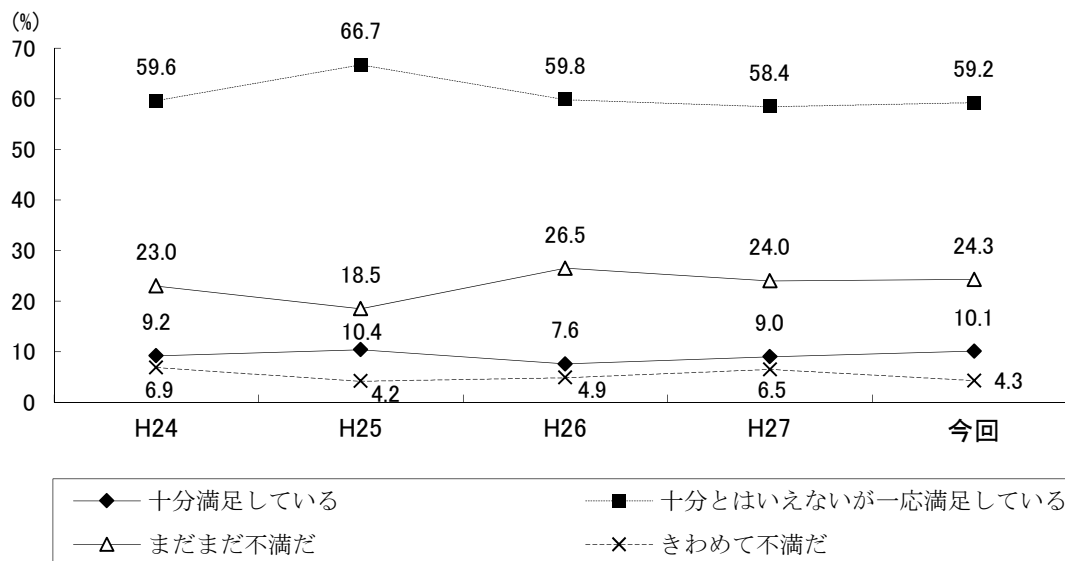


暮らし向きへの満足度としては、「十分満足している」(10.1%)と「十分とはいえないが一応満足している」(59.2%)を合わせた【満足】(69.3%)が約7割となっている。一方、「まだまだ不満だ」(24.3%)と「きわめて不満だ」(4.3%)を合わせた【不満】(28.6%)は約3割となっている。

—特に大きな増減はない—

前回調査(昨年)と比べると、特に大きな差はみられない。

図I 1-1 暮らし向きへの満足度(時系列)



**－鹿行で【満足】が6割台前半－**

地域別でみると，【満足】は，鹿行（61.9％）で6割台前半と低くなっている。

**－女性で【満足】が男性よりも約9ポイント高い－**

性別でみると，【満足】は，女性（73.8％）が男性（64.5％）よりも約9ポイント高くなっている。

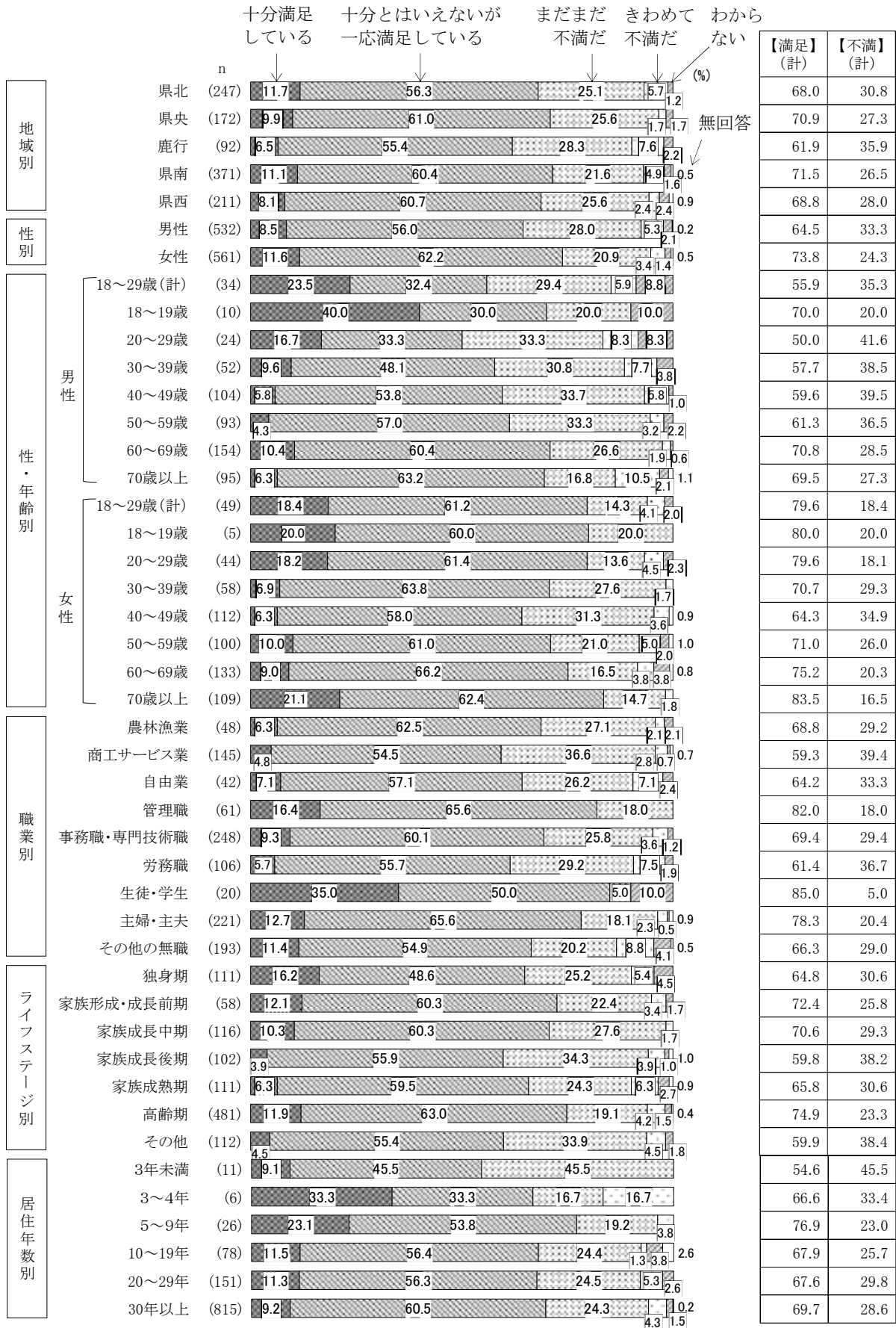
**－女性の70歳以上で【満足】が8割台半ば－**

性・年齢別でみると，【満足】は，女性の70歳以上（83.5％）で8割台半ばと最も高くなっている。

**－管理職で【満足】が8割超－**

職業別でみると，【満足】は，管理職（82.0％）で8割を超えて高く，次いで，主婦・主夫（78.3％）で約8割となっている。

図 I 1-2 暮らし向きの満足度  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。

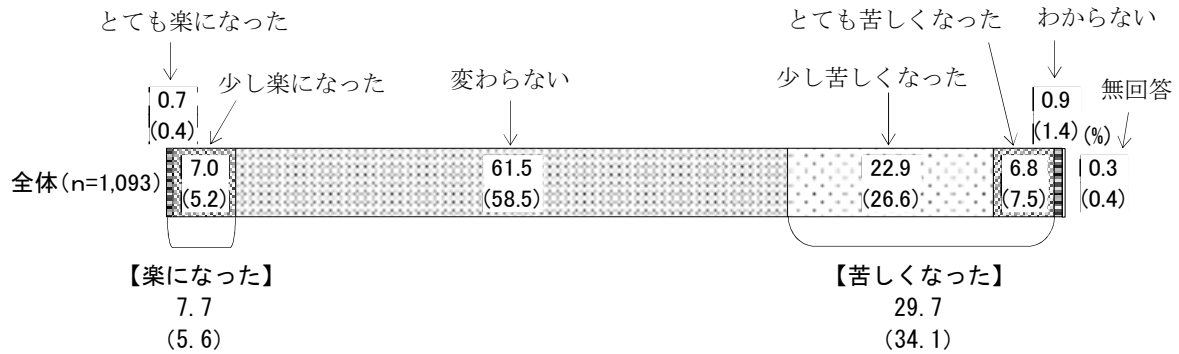
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

## 2. 暮らし向きの変化

### (1) 暮らし向きの変化

#### －「変わらない」が6割超－

問2 暮らし向きは、昨年の今ごろに比べて楽になりましたか。それとも苦しくなりましたか。次の中から、一番近いものを1つだけ選んでください。



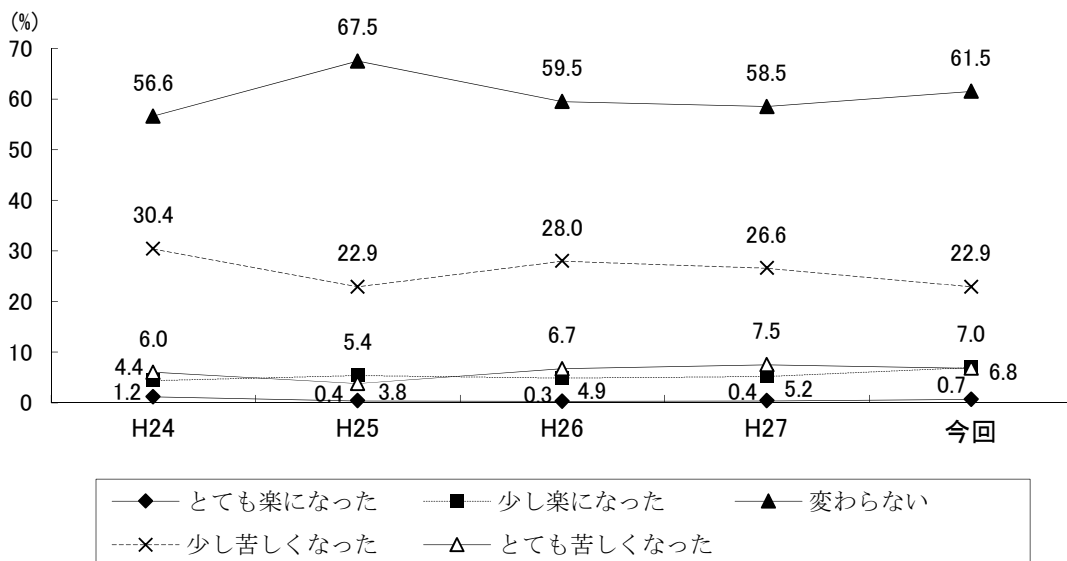
※( )内の数値は、平成27年の調査結果

暮らし向きの変化としては、「変わらない」(61.5%)が6割を超えている。一方、「少し苦しくなった」(22.9%)と「とても苦しくなった」(6.8%)を合わせた【苦しくなった】(29.7%)は約3割となっている。

#### －「変わらない」が3ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「変わらない」が3ポイント増加している。一方、【苦しくなった】が約4ポイント減少し、内訳としては「少し苦しくなった」が約4ポイント減少している。

図I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



**一県西で【苦しくなった】が3割台半ば一**

地域別でみると，【苦しくなった】は，県西（35.0％）で3割台半ばと最も高くなっている。

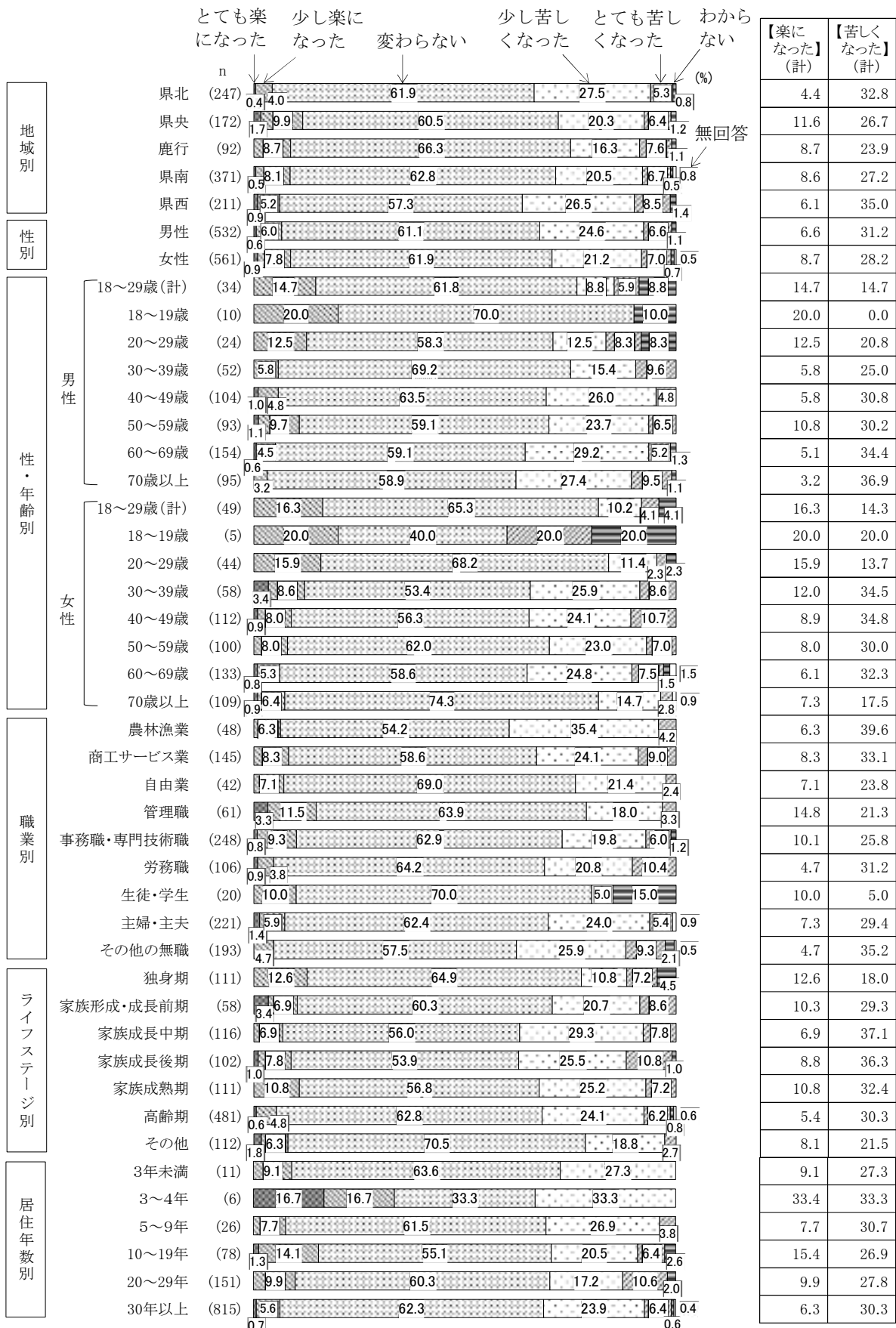
**一男性の60代，70歳以上，女性の30代，40代で【苦しくなった】が3割台半ば一**

性・年齢別でみると，【苦しくなった】は，男性の60代（34.4％），70歳以上（36.9％），女性の30代（34.5％），40代（34.8％）で3割台半ばと高くなっている。

**一農林漁業で【苦しくなった】が約4割一**

職業別でみると，【苦しくなった】は，農林漁業（39.6％）で約4割と最も高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化  
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



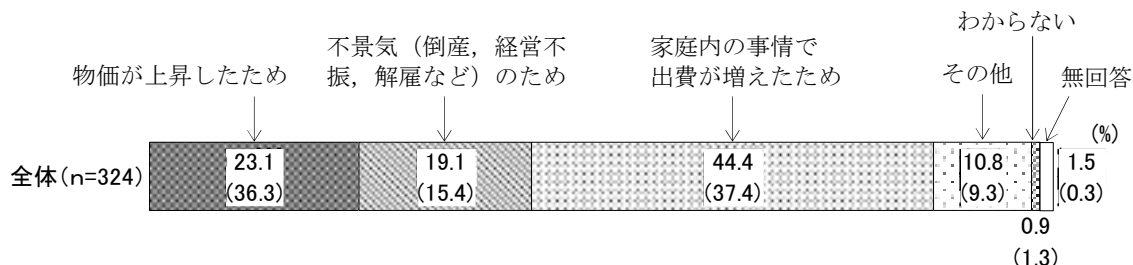
(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。  
性・年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

## (2) 苦しくなった理由

### －「家庭内の事情で出費が増えたため」が4割台半ば－

(問2で「4 少し苦しくなった」, 「5 とても苦しくなった」と回答した方のみ)

問2-1 苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から、最も大きな原因を1つだけ選んでください。



※( )内の数値は、平成27年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「家庭内の事情で出費が増えたため」(44.4%)が4割台半ばと最も高く、次いで、「物価が上昇したため」(23.1%)が2割台半ばで続いている。

### －「家庭内の事情で出費が増えたため」が7ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「家庭内の事情で出費が増えたため」が7ポイント増加している。一方、「物価が上昇したため」は約13ポイント減少している。

### －県北で「物価が上昇したため」が約3割－

地域別でみると、「物価が上昇したため」は、県北(30.9%)で約3割と最も高くなっている。

### －女性で「家庭内の事情で出費が増えたため」が男性よりも約15ポイント高い－

性別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性(51.9%)が男性(37.3%)よりも約15ポイント高くなっている。

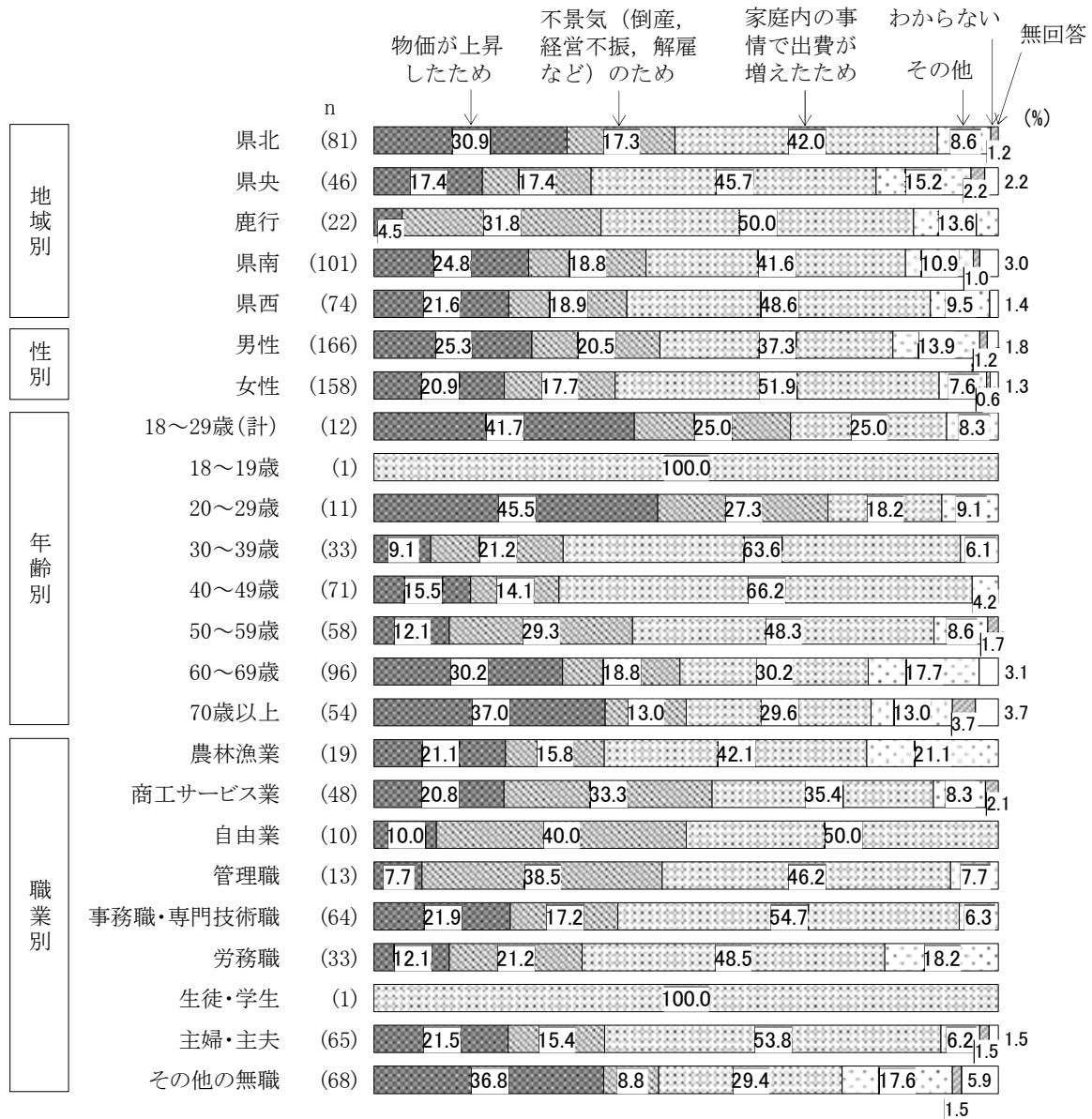
### －30代と40代で「家庭内の事情で出費が増えたため」が6割台半ば－

年齢別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、30代(63.6%)と40代(66.2%)で6割台半ばと高くなっている。

### －70歳以上で「物価が上昇したため」が約4割－

年齢別でみると、「物価が上昇したため」は、70歳以上(37.0%)で約4割と高くなっている。

図I 2-1-1 苦しなくなった理由  
(地域別, 性別, 年齢別, 職業別)



(注) 回答者数が30人未満の層には分析でふれていない場合がある。  
年齢別では、18~19歳、20~29歳よりも18~29歳の層の分析を優先する。

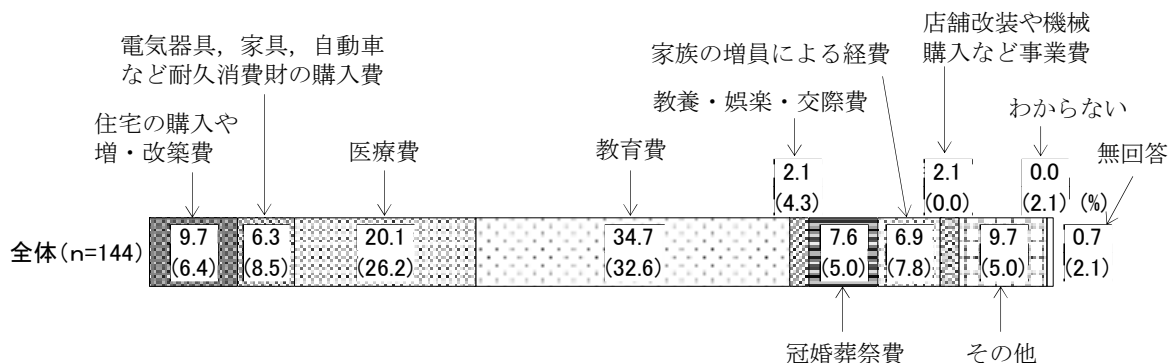


(3) 増えた経費

－「教育費」が3割台半ば－

(問2-1で「3 家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方のみ)

問2-1-1 家庭内の事情で出費が増えたということですが、どのような経費が最も増えましたか。次の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



※( )内の数値は、平成27年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】理由を、「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方に、増えた経費を聞いたところ、「教育費」(34.7%)が3割台半ばと最も高く、次いで、「医療費」(20.1%)が約2割で続いている。

－「医療費」が約6ポイント減少－

前回調査(昨年)と比べると、「医療費」が約6ポイント減少している。